

朝起きたら頭がぼうつとしていた。

昨夜はいきなりカズミとリカコが訪ねてきて、突如宴会になってしまったのだ。この子たちは一番仲のいい友達で、それが災いして、連絡もせずにいきなり訪ねてくることがあるのだ。

まったく迷惑な話だが、私はこの二人をとくに可愛いと思っているので憎めないところがある。飼っている猫がイタズラをしても憎めないのと同じだ。

私たちは美容アカデミースクールの同期生で、常に一緒に活動していた。三人とも美容業界に憧れを持ち、三年間のカリキュラムを終えて

卒業後、カズミは美容師になり、リカコはファッション関係の仕事をしている。

卒業後でも常に連絡を取っては、ごはんを食べに行ったり飲みに行ったりと、繋がりは絶えなかった。

カズミは二十六歳でリカコは二十九歳。私というと現在三十五歳で、彼女たちよりも、少し？ だけお姉さんなのだ。

さて、お姉さんと言えるかどうか分からないが、私は元男で、生まれつき自分の性別に疑問を持って、ずっと悩んでいた性同一性障害だった。

心は女性だが、体が男であるために高校卒業まで悩み、ずっと女になりたいという気持ちを持ち続けていた。

できれば性転換手術をしたかったけど、それもすぐには決断できず、三十歳でようやく決心して手術をしたのだ。

なぜ三十歳だったかという、その年に父が他界し、それをきっかけにして母にカミングアウトをしたのだ。そのことを母に話したら「わかったよ。なんとなくそんな気がしてた。

あんたの好きにすればいい」と言ってくれた。そんな紆余曲折があった、私はようやく手術をする決断をしたのだった。

手術は睾丸の摘出だけにしておいた。竿（ペニス）まで取ってしまうのは怖かったし、費用も倍かかってしまう。

それになぜか男としてのセックスもしたかった。メンタル的に男の部分が残っているのかも知れない。これからも性生活は充実させていきたいと思っていた。

